49 淡河八幡神社の御旅神事 (市)
❶淡河八幡神社御旅神事氏子会　❷10月5日
❸神戸市北区淡河町勝雄35　❹淡河町勝雄　淡河八幡神社

八幡神社から近くの天満神社へ神を神輿に乗せて運んで行く行事。神社伝来の文化8年（1811）の古記録に「渡御祭所役」がみえるが、現在もこの古式にのっとって忠実におこなわれている。白装束にかこまれ、太鼓の音に合わせて神輿が渡る様は壮観である。

50 南僧尾神楽獅子 (市)
❶南僧尾神楽獅子保存会　❷9月15日
❸神戸市北区淡河町南僧尾910　❹淡河町南僧尾　松尾神社

この神楽獅子は、能の家元で、代々松尾神社の神官でもあった福王家の子孫・福王但馬守盛忠がつくり、奉納したのが始まりと言われる。当日は、神社で舞った後、氏子の各家を回る。

51 熊野神社の獅子舞 (市)
❶熊野神社神楽保存会　❷10月スポーツの日
❸神戸市北区長尾町上津96　❹長尾町上津　上津熊野神社

昔、この地方が大旱魃に見舞われた時、越後国から獅子舞神楽を招いて雨乞いの奉納をしたのが始まりと言われる。演目で注目すべきは、"五尺踊り"で、獅子が紙の幣と日の丸扇子を持って舞う。唄は、江戸時代に流行した歌詞を忠実に受け継いでいる。

52 六條八幡神社の流鏑馬神事 (市)
❶六條八幡神社流鏑馬保存会　❷10月第2日曜日
❸神戸市北区山田町宮ノ片57　❹山田町宮ノ片　六條八幡神社

秋の例祭日に流鏑馬神事がある。土地では、「ウマカケ」と呼んでいる。鳥居の外から本殿に向かって進んで、鳥居の所に戻って矢を放つ。市内で流鏑馬神事がおこなわれているのはここだけである。

53 原野六斎太鼓念仏 (市)
❶原野六斎太鼓念仏保存会　❷8月16日
❸神戸市北区山田町原野字天神26　❹山田町原野　成道寺

お盆や葬儀の際に行われる念仏の一種。もと、毎月六回の持斎日（仏教で午後、食事をしない日）におこなわれたため、この名前があると言う。阿弥陀の画像をかけ、太鼓、鉦の音に合わせて念仏を詠唱する。

54 無動寺のオコナイ (市)
❶無動寺オコナイ保存会　❷2月第1日曜日
❸神戸市北区山田町福地字新池100　❹山田町福地　無動寺

新年に村内の繁栄を祈って本堂で行われる行事。住職が修正会をつとめる際に打ち鳴らす錫杖の音を合図に、参列者は棒を振り上げてゴザの上に置かれた歩板を叩く。最後に、牛王宝印が与えられる。

55 勝福寺の追儺式 (市)
❶勝福寺追儺式保存会　❷1月7日　❸神戸市須磨区大手町9丁目1−1
❹大手町　勝福寺

樺色の麻の衣を着、白い紐を全身にまきつけた大鬼5人、子鬼4人がでる。子鬼は、手にカッタリコと呼ばれる五色の紙を巻きつけた1mほどの棒を持つ。大鬼の踊り手5人は、舞台から降りる毎に面を取り替えて登場する点が特徴である。

56 多井畑カネタタキ (市)
❶多井畑カネタタキ保存会　❷旧暦8月13日
❸神戸市須磨区多井畑字宮脇1　❹多井畑地区内

毎年旧暦の8月13日、豊作を祝って、子供達が行灯を先頭にカネ、太鼓に合わせて唄を唄いながら村中を練り歩く祭である。参加するのは、厄除八幡宮氏子の8歳〜15歳の男性。中世まで遡る古い形態を伝えている貴重な行事である。

57 妙法寺追儺式 (市)
❶妙法寺追儺式保存会　❷1月3日
❸神戸市須磨区妙法寺字毘沙門山1286　❹妙法寺　妙法寺

1月3日、妙法寺本堂でおこなわれる。鬼は、太郎鬼、次郎鬼、ババ鬼（以上白鬼）、5ジカ鬼（黒鬼）、2子鬼で構成される。ここの追儺の特色は、親鬼と子鬼の旅を表しているところにある。寺伝の鬼面は、平安時代制作と伝えられる。

58 明王寺の追儺式 (市)
❶明王寺追儺式保存会　❷1月4日　❸神戸市垂水区名谷町1900
❹名谷町　明王寺

1月4日、修正会の結願として明王寺本堂でおこなわれる。太郎鬼1、次郎鬼1、ババ鬼1、子鬼4という構成で、大人の鬼は厄年の者から選ばれる。定式がなく、即興的な所作が特色で、勇猛さで知られた。式に使用する太鼓には、応安二年（1369）の墨書銘がある。

59 転法輪寺の追儺式 (市)
❶転法輪寺追儺式保存会　❷1月7日　❸神戸市垂水区名谷町2089
❹名谷町　転法輪寺

1月7日に転法輪寺本堂でおこなわれる。厄年前後の者から希望者3人が親鬼になる。子鬼は、中山在住の小学校高学年男子4人がなる。追儺の前には、住職、檀家により修法がおこなわれ、聖俗一体でおこなう行事の伝統を良く伝えている。

60 河内国魂神社の猿田彦 (市)
❶河内国魂神社猿田彦保存会　❷5月3日
❸神戸市灘区国玉通3丁目6−5　❹国玉通　河内国魂神社

春の大祭の時におこなわれる行事。天孫降臨の際、ニニギノミコトを先導したとされる猿田彦をかたどった未婚の青年が、神輿の先導をつとめる。面をつけ、鉾を持ち、ゆったりしながらもダイナミックに舞う無言の猿田彦の姿に伝統の重みが感じられる。

61 船寺神社の獅子舞 (市)
❶船寺神社獅子舞保存会　❷11月3日
❸神戸市灘区船寺通2丁目1−25　❹船寺通　船寺神社

獅子舞は、11月3日（本祭）午前より午後6時頃まで御神威を体現した金獅子六頭をもって氏子の家をまわる。舞は、「大祓い」「浄めの舞」「四方の舞」「皐月の舞」の4つで構成される。小学生の参加が多数あり、年々、盛んになっている。

62 伊川谷惣社の獅子舞 (市)
❶惣社秋祭獅子舞保存会　❷10月第1土・日曜日
❸神戸市西区伊川谷町上脇1005　❹伊川谷町上脇　伊川谷惣社

伊川谷惣社の秋祭りに際し、本殿前の土俵で舞われる。獅子の所作は、足ねぶり、腰乗り、こま犬等があるが、最大の見せ場は「肩くま」である。これは獅子の後足役の肩の上に左足で立った前足役が、左手に傘、右手右足に扇を持って演じるアクロバティックなものである。

63 前開八幡神社のシュウシ (市)
❶前開八幡神社シュウシ保存会　❷1月19日
❸神戸市西区伊川谷町前開1271　❹伊川谷町前開　前開八幡神社

1月の例祭時に神前に備えた食事と神酒を戴く行事。頭屋の家で一定の作法にのっとって茶を飲んだ後、神社拝殿手前のシュウシ部屋におこなう。部屋では、祭番とシュウシ番が洗米、神酒、いりこなどを参集した氏子に与えてまわる。

64 近江寺の修正会 (市)
❶近江寺修正会保存会　❷2月11日　❸神戸市西区押部谷町近江147
❹押部谷町近江　近江寺

寺の檀家、9地区が毎年交代でおこなう。当日、修正会後、当番地区の総代が牛王宝印を受けた後に鬼追いが始まる。2鬼が7種の踊りを行い、子鬼20が乱舞するところに特色がある。

65 性海寺の追儺式 (市)
❶性海寺追儺式保存会　❷1月成人の日
❸神戸市西区押部谷町高和1318　❹押部谷町高和　性海寺

当日、僧侶の祈祷の後、鬼追いが始まる。毎年、希望者から選ばれた2親鬼（赤鬼、青鬼）、チョキ鬼、4子鬼でおこなわれる。鬼は、左手に松明をもち、子鬼は棒をもって太鼓と法螺貝にあわせて堂内をめぐりながら魔除けの踊りを舞う。古式を良く伝えている。

66 神出町、三坂神社・大歳神社・嶋姫神社の獅子舞 (市)
❶神出町獅子保存会　❷10月第2土・日曜日　❸神戸市西区神出町
❹神出町、三坂神社・大歳神社・嶋姫神社・神出神社・岩岡神社

神出町の北（三阪神社）・池下（大歳神社）・新々田（嶋姫神社）の3地区の獅子舞から成っている。それぞれの地区の神社で演ずる他、秋祭りでは、北・池下は神出神社で、新々田は岩岡神社（神出町に西隣の岩岡町）で奉納する。10の演目が舞われる。

67 本住吉神社のだんじり (市)
❶本住吉神社地車振興会　❷5月4・5日
❸神戸市東灘区住吉宮町7丁目1−2　❹住吉宮町　本住吉神社

当神社の例祭は、一名「灘のだんじり祭」として広く知られる。天保6年（1835）末に起こした『楽車一条勘定録』により、少なくとも江戸時代後期には存在していたことが分かる。

68 弓弦羽神社のだんじり (市)
❶弓弦羽神社地車協賛会　❷5月3・4日
❸神戸市東灘区御影郡家2−9−27　❹御影郡家　弓弦羽神社

東之町・弓場・中之町・西之町・郡家・平野・中御影・西御影8地区8基のだんじりが町内を巡行し、宮入して境内で曳きまわされる。数ある市内のだんじりの中でも規模が大きいものの一つである。

69 東明八幡神社のだんじり (市)
❶東明祭礼奉賛会　❷5月下旬の土・日曜日
❸神戸市東灘区御影塚町3丁目9−16　❹御影塚町　東明八幡神社

東明八幡神社のだんじりは、明治時代には屋根に布団をのせた「ふとんだんじり」というかきだんじりによって行われていた。一時中断された時期があったが、現在は2基の曳きだんじりがおこなわれ、だんじり囃子が子供たちによって受け継がれている。

70 保久良神社のだんじり (市)
❶保久良神社地車保存会　❷5月4・5日
❸神戸市東灘区本山町北畑 680　❹本山町　お旅所鷺宮八幡神社

麓の御旅所である鷺宮八幡神社で行われている。境内中央の一つ松を右まわりに数回まわり、社殿と鳥居の間を数往復し、最後は神前でだんじりの前部を何度も高く持ち上げる。

71 兵庫木遣音頭 (市)
❶兵庫木遣保存会　❷神戸まつり等　❸神戸市兵庫区西出町1−16−10
❹—

福原京造営の時、建築用材を運ぶにあたり地元住民が唄い、踊ったのがおこりと言われる。現在の音頭は、西国大名が参勤交代をする際、船子たちが唄った唄に似ており、踊りの所作もそのころのものが祖形となっている。

72 和田神社のだんじり (市)
❶和田宮だんじり保存振興会　❷5月2・3日
❸神戸市和田宮通3丁目2−45　❹和田宮通和田神社

和田神社のだんじりは、摂津地方では、岸和田に次ぐだんじり祭といわれていた。昔からいわれている「和田宮のあばれだんじり」の片鱗をみせ、年々賑わいを増している。

73 雀のお頭 (市)
❶太福寺太子祭保存会　❷2月12日　❸神戸市北区道場町生野148
❹太福寺

1月に入ると、青年は朴［ほう］の木の薄皮をはいで花状に削った雀の巣を作る。小雀［こすずめ］は、はぜの木を削り、色付けして雀に仕上げる。柄になる部分は青竹を割り、三ッ又に先を削り、雀の巣を中央に差し込む。その両側に小雀を差すと2匹の雀が巣に並んで留まったように見える。

74 山口袖下踊り (市)
❶山口町袖下民謡育成保存会　❷毎年8月14日・15日
❸西宮市山口町　❹—

別名「ソンジャ踊り」と呼ばれ、新仏供養のために踊るといわれる。18世紀頃からの伝承といわれ、大太鼓・小太鼓に音頭取りがつき、音曲は口説き調である。踊りの振りには、手足をあまり動かさない座敷踊りの特徴が見られる。

75 岡太神社の一時上臈 (市)
❶岡太神社一時上臈保存会　❷毎年10月11日
❸西宮市小松南町2丁目2−8　❹西宮市小松南町　岡太神社

10月9日に南北2つの講（現在は一時上臈保存会）が社務所に集まり、各18本「カイ」と呼ばれる御幣を作り、各3本を本殿に奉納する。11日の例祭では、南北それぞれの唐櫃の上に直径1mの藁の輪を置いて、その上に「カイ」を15本ずつ立て、餅・柿・柚・柘榴・栗・神酒・米を1組として2組つくった供物とともに神前に供える。

76 摂津音頭 (市)
❶摂津音頭保存会　❷8月下旬　❸伊丹市　❹北部地域

伊丹・宝塚・川西の旧川辺郡で広く踊られた盆踊り。特に「チョイトカケタ」という囃し言葉はこの音頭独特のものであり、仕事唄から流入しているものや、酒造り唄の歌詞がかなり流入していて特徴的である。

77 ケトロン祭 (市)
❶宝山寺　❷毎年8月14日　❸宝塚市大原野字堂坂53
❹宝塚市大原野　宝山寺

8月14日の夜、宝山寺境内で行われる燈籠会の一種で、疫病よけとして続けられている。「ケトロン」という名称は念仏衆の持つ鉦や太鼓の音に由来している。

78 星下り祭 (市)
❶中山寺　❷毎年8月9日　❸宝塚市中山寺2丁目11−1
❹宝塚市中山寺　中山寺

8月9日は「ここのかび」と呼ばれ、西国三十三カ所の観音様が星となって中山寺に集まるといわれる。御詠歌奉納の後、午後10時よりボンテン（御幣）奉弊の行事が行われる。

79 西谷地区のちまきの食文化 (市)
❶大原野　❷—　❸宝塚市西谷大原野　❹—

西谷地区では全国的にも稀なナラガシワとヨシの2種類の植物で包むちまきが現在も作られている。
作られたちまきは、仏壇や神棚、荒神に供えるほか、嫁の里帰りの際に土産として持たせるなど、単なる食文化としてだけでなく、贈答の習俗として地域に根差したものとなっている。

80 稲引・樽引神事 (市)
❶加茂神社　❷毎年10月1日（秋祭り宵宮）　❸三田市加茂字野口411
❹三田市加茂　加茂神社

稲引き神事では、神と村人に見立てて、男衆が二手に分かれて稲束を奪い合う。稲束を社殿に納めてのち、樽を奪いあう樽引神事が行われる。

81 お頭 (市)
❶—　❷1月4日（四日堂）　23日（二十三日頭）　❸三田市桑原西区
❹感神社

四日堂で新生児の氏子入りを行う。赤土を練って男根の作り物になすりつけ、紙にうつしとる。この日に豆腐の味噌田楽を食べる。二十三日頭で弁天堂に参り、弓打ちを行う。

82 千本づき (市)
❶高売布神社　❷毎年10月上旬　❸三田市酒井字宮の脇50
❹高売布神社

神社の秋祭に先立ち、前年に子どもが生まれた家の当主「初党（ういとう）」が集まり、搗きあがった餅を丸めず細かくちぎったままにした「チギリ御供」を12本細杵で礎場搗臼の周りを歌いながらつきあげる。七五三に盛り分けた御供は本殿と御旅所（川原）で供える。

83 三田御殿踊り (市)
❶御殿踊保存会　❷公開不定期　❸三田市三田町
❹三田市総合文化センター、他

寛永10年（1633）に九鬼久隆が移封してきたとき、城下の人びとが歓喜して領主を迎えたときに踊ったことがはじまりという。その後、中秋の名月には城主が家臣、御殿女中を奥御殿で踊らせ、その囃子の音色が城下のすみずみまで響きわたったという。
現在も秋の市民文化祭を中心に踊りが挙行される。

84 三田市内に残る田楽 (市)
❶各神社田楽保存会　❷毎年10月2日他　❸三田市内8カ所
❹三輪神社・加茂神社・福島稲荷神社・貴志御霊神社・西野上天満神社・志手原八王子神社・末西天満神社・末東天満神社

三田市内8箇所の地区で「ホーホー踊」「ホーヤホーヤ踊」という名で田楽が伝承されている。おもに締め太鼓とビンササラをもちい、4〜6人でおこなわれる。いづれも「かえるとび」や「歩き踊り」をおこなうほか、「鶴の舞」をおこなうところもある。武庫川の本流域に近接して伝承されており、祭礼の際に御神体が移されるときを選んでおこなわれたり、神輿渡御を先導するようにおこなわれる。

85 波豆川　お練り (市)
❶波豆川芸能文化保存会　❷毎年10月11日
❸三田市波豆川字八坂1527　❹三田市波豆川　八坂神社

波豆川の氏神八坂神社の宵宮に伝承では約450年前（大永年間）より、「練り子」とよばれる歌舞伎衣装を身にまとい化粧をした氏子の子どもを中心に、大太鼓・締め太鼓、拍子木でリズムをとり、高張提灯を先頭に天狗、お多やん、男衆などの参加で花木口上、練り込みをおこなう。

86 柏原の練り込み (町)
❶柏原の練り込み保存会　❷休止中
❸川辺郡猪名川町柏原字宮脇11（八阪神社）　❹柏原　八阪神社

秋祭りの宵を彩る風流のひとつ。12・3歳までの氏子が練子となり、芝居装束を身に付けて歌舞伎の名場面から取材した所作を演じながら宮まで練り歩く。
昭和終わり頃まで町内北部一帯で村ごとに行われていたが、現在は杉生・西畑地区のほか1地区のみとなった。

87 杉生・西畑の練り込み (町)
❶杉生西畑練り込み保存会　❷毎年10月16・17日
❸川辺郡猪名川町杉生字宮ノ下1（八坂神社）　❹杉生　八坂神社

秋祭りの宵を彩る風流のひとつ。12・3歳までの氏子が練子となり、芝居装束を身に付けて歌舞伎の名場面から取材した所作を演じながら宮まで練り歩く。
昭和終わり頃まで町内北部一帯で村ごとに行われていたが、現在は柏原地区のほか1地区のみとなった。

88 三矢の儀式 (町)
❶民田自治会　❷1月6日　❸川辺郡猪名川町民田　❹民田八幡神社

相頭の親が二メートルほど離れた的に矢を射る年始の的射行事。次いで初頭の親が射る。こうして二本の矢を的に射ると、相頭の親が恵方の空に向かって矢を放し、続いて初頭の親が放す。初頭と相頭は親が放した矢を探しに行き、三本を束にして半紙で持ち相頭の親、初頭の親に手渡すと三矢の儀式は終わる。
初頭はすぐに鬼と書いた的を下にして手に持ち、急いで家にもどり、玄関上の屋根に的の鬼と書いた方を下にして固定して置いておく。的は次の年のトンドで燃やす。家に不幸があると、神社に預けている。

89 藤江の的射 (市)
❶的射行事保存会　❷毎年1月15日　❸明石市東藤江2−15
❹御崎神社

藤江村に風水害をおこす悪霊を、裃姿の大前・弓立が村民を代表して矢を射落とし、豊作豊漁を招く弓の民俗芸能である。

90 清水のオクワハン (市)
❶清水村民俗行事世話人　❷6月15日（平成15年度）
❸明石市魚住町清水　❹清水地区　清水神社

一般的にはサナブリと呼ばれる行事の一種である。桑の木で作った鍬を水の取り口で水につけた後、水田を歩く。水との結びつきを伝える現在ではきわめて珍しい慣行と考えられている。

91 明石浦のおしゃたか舟 (市)
❶明石浦のおしゃたか舟保存会　❷毎年7月第3土曜日
❸明石市材木町8−10　❹岩屋神社

岩屋神社の夏祭として行われる。榊をつけた八艘の舟を青年が「おしゃたか」といいながら、小舟を前へ投げながら海岸を渡る。海難防止と豊漁を祈願した漁民の状況を伝えるものである。

92 大蔵谷の牛乗り (市)
❶大蔵谷民俗芸能保存会　❷スポーツの日の前日とその前日
❸明石市大蔵本町6−10　❹大蔵本町　稲爪神社

10月の稲爪神社例祭時に行われる。矢をつがえた弓を手に持った人物が黒牛に乗って町内を一巡する。古代、鉄人が黒牛に乗って攻めて来たのをこの地で滅ぼした古事を伝えるものである。

93 大蔵谷の囃口流し (市)
❶大蔵谷民俗芸能保存会　❷スポーツの日の前日とその前日
❸明石市大蔵本町6−10　❹大蔵本町　稲爪神社

10月の稲爪神社例祭宵宮に宮入りした後、氏子の家々をまわり戸口で謡うものである。服装は普段着で、採物の扇子を顔の横にあてて三味線にあわせて謡う。

94 鶴林寺鬼追い (市)
❶鶴林寺鬼追い保存会　❷毎年1月8日
❸加古川市加古川町北在家424　❹鶴林寺

室町時代からの形式を残す会式次第が伝わっており、災いに見たてた鬼が堂内を周回し、追い払われて平和な年がくることを暗示する。寺伝の謡曲本「安田吉道」によると、起源は、村上天皇の時、播磨国守具平親王の赴任の頃、安田吉道が修正会鬼追いの世話役を代々務め、慶長の頃安田吉太夫と改名したとあり、安田地区が行事を運営。赤・青・子鬼4匹が登場。

95 高砂神社秋季例大祭船渡御 (市)
❶高砂神社秋祭り保存会　❷10月10日　❸高砂町
❹堀川から加古川河口

毎年行われる秋季例大祭で、3年に一度、堀川から加古川河口まで神輿を海上渡御する船渡御が行われる。船渡御は、祭礼の一部をなすものであるが、この行事は町の結束の強い絆となっており、歴史的に見ても、近世的な船祭りの姿をよく残している。

96 荒井神社仁輪加太鼓 (市)
❶仁輪加保存会　❷スポーツの日の前々日と前日
❸高砂市荒井町千鳥2−23−12　❹荒井神社

仁輪加とは、「にわか芝居」の意味で、毎年作られる題目にもとづき、造りものや舞子・乗子・担ぎ手による舞いと囃しが行われる。三味線の伴奏にて、寸劇を演じつつ、氏地内を披露して廻る郷土芸である。

97 野寺山高薗寺鬼追式 (町)
❶野寺山高薗寺鬼追保存会　❷毎年2月9日・10日
❸加古郡稲美町野寺851　❹野寺　高薗寺

赤鬼は毘沙門天、青鬼は不動明王の化身。鬼は、太鼓とほら貝の音に合わせて、たいまつを持って観音堂の縁側で踊り、そのたいまつを外に向かって投げつける。鬼の面は約250年前から伝えられている。

98 古宮獅子舞 (町)
❶古宮獅子保存会　❷毎年10月23日頃　❸加古郡播磨町古宮
❹古宮　住吉神社

田楽の系統に芝居の所作が加わり、伊勢神楽系の獅子舞となったもののようである。舞には「狐」「汐汲み」「牡丹」など10の型があり、それぞれ、笛・太鼓の囃子にあわせて優雅に舞うのを特色とする。

99 大宮八幡宮例大祭宮入宮出の屋台練り (市)
❶大宮八幡宮秋祭り大当番　❷毎年10月スポーツの日の直前の土・日曜日　❸三木市本町2丁目19−1　❹大宮八幡神社

1720年代に祭礼が始まったと考えられる。屋台の宮入は、担ぎ手に担がれた氏子各町の屋台が、約16mの高位にある境内までの約21度余りの傾斜をもつ85段の石段を上っていく練りで、宮出は、屋台を担ぎ同じ石段を下っていく練りをいう。このような屋台を担ぎ、石段を上り下りする宮入宮出の練りは、播州地方でも見られない独特な練りである。

100 蓮花寺鬼踊り (市)
❶蓮花寺鬼踊り保存会　❷毎年2月第1日曜日
❸三木市口吉川町蓮華寺188　❹蓮花寺

約800年前に始まったと伝える蓮花寺鬼踊りは、追儺式とも呼ばれ、平和と豊作と厄除けを祈願し行われる。古い作法にのっとり、浄めの踊りからもち切りの踊りまで、12種類の踊りを大鬼、子鬼が交互に踊る。古い所作を今に伝える数少ない鬼踊りである。

101 西脇若一神社獅子舞 (市)
❶西脇町獅子舞保存会　❷毎年10月第2日曜日　❸小野市西脇町
❹阿形町若一神社　西脇町グランド

囃子太鼓に文化6年の銘があり、この頃には疫病退散、五穀豊穣を祈願し若一神社に獅子舞を奉納していたと考えられる。13種の舞いの内、谷渡りの舞いは梯子獅子である。

102 妙覚寺ワラワラ (市)
❶市原町妙覚寺ワラワラ保存会　❷毎年1月4日　❸西脇市市原町576
❹市原町　妙覚寺

お堂の縁側を藤の蔓で叩いて豊作を祈願する行事。村落の年頭の予祝行事と仏教の修正会が習合した寺オコナイ。

103 八幡神社お笑い神事 (市)
❶八幡神社お笑い神事保存会　❷毎年10月第2日曜日
❸西脇市下戸田626　❹下戸田　八幡神社

八角棒を担ぎ、白扇を開いて上下させながら、拝殿を笑いながら回る行事。そのあと押し手、引き手の相撲を行う。祭神の応神天皇をあやしている様子だと伝えるが、豊作を祈願するとも伝える。
由来や始まった年代など不明な点が多い。

104 八幡神社網引獅子舞 (市)
❶八幡神社網引獅子舞保存会　❷10月上旬の土曜・日曜（3年毎）
❸加西市網引町　❹網引町　八幡神社

明治20年に加東郡来住村（現代の小野市）から、伝わったもので、秋祭りに演じられる。舞は、13種類あり、特に「谷渡り」は、6m余りの梯子を組み合わせて1段1段舞いながら、演技していく。

105 王子獅子舞 (市)
❶王子獅子舞保存会　❷毎年4月第3日曜日　❸加西市王子町231
❹王子町　王子神社

王子神社の春祭に毎年演じられている。江戸時代中期以来伝承され、獅子とりが2人で頭と尾を持つ2人立ての獅子舞で、笛4人と太鼓1人が伴奏する。11種類の舞、子どもが獅子の後で舞う。

106 住吉神社鶏合せ (市)
❶鶏合せ・龍王舞保存会　❷毎年4月第1日曜日
❸加西市北条町北条1318　❹北条町北条　住吉神社

北条節句祭りの最後に執行される。保安3年（1122年）に始められた。平安時代の雑色の装束、烏帽子、草履といういでたちで雄鶏を合わせる。

107 柱祭 (市)
❶加東市黒谷地区　❷毎年8月16日　❸加東市黒谷275　❹若宮八幡宮

行事に先立って地域住民が近隣の山中より竹木などの材料を切り出し、若宮八幡宮境内前面の平地にて、材料を蔓等で組んで「やま」と呼ばれるものを作り上げる。行事当日、若宮八幡宮本殿前で神事が行われ、「やま」にうつす火を松明に採った後、神主の先導で松明を持った当番が「やま」へ火を入れる。火はいっきに「やま」の中をめぐり、勢いよく燃えだすと、炎は高く燃え上がる。この行事は、送り火の一種と考えられ、神社の斎灯を「やま」に燃え移すことで、祖霊を供養するものと推定される。

108 安楽田神楽 (町)
❶安楽田神楽保存会　❷毎年10月前半　❸多可郡中町安楽田
❹安楽田　荒田神社

荒田神社に秋の祭礼に奉納する神楽。祭礼当日午前中に氏子一戸一戸獅子舞がまわり、午後には拝殿で舞う。

109 スズメノモン (町)
❶大歳金比羅神社　❷毎年12月31日　❸多可郡中町鍛冶屋
❹鍛冶屋　大歳金比羅神社

五穀を害する雀の災いを除くために、雀の好むものを与え、翌年の豊穣を祈念する行事。（お当行事）

110 修正会鬼会式（鬼追い） (町)
❶修正会鬼会保存会　❷毎年1月7日　❸姫路市香寺町相坂1068
❹相坂　八葉寺

播磨路で一番早い鬼追い式。不動明王・毘沙門天の化身の赤・青鬼が登場して、息災延命、万民快楽、五穀豊穣を祈願し悪魔払いを行う。鬼の舞い手は主に厄年の人が当てられる。

111 樽かき (市)
❶岩部樽かき保存会　❷毎年スポーツの日直前の土日
❸姫路市香寺町岩部208　❹岩部　大歳神社ほか

樽かきの祭りは、市川の氾濫から村を守った大蛇の伝説にならい、酒樽を2人で担いで氏神に奉納し、平穏無事・五穀豊穣を祈願するという極めて珍しい郷土芸能。

112 北恒屋播州音頭 (市)
❶北恒屋播州音頭保存会　❷毎年8月最後の週の土曜日
❸姫路市香寺町恒屋2276　❹北恒屋　櫃倉神社

櫃倉踊りといって香寺町域最終の盆踊りとして音頭取りが披露する播州音頭にあわせて踊る。五穀豊穣や雨乞い祈願の行事ともいわれる。

113 恒屋雅楽 (市)
❶恒屋雅楽保存会　❷毎年12月4日　❸姫路市香寺町恒屋915
❹北恒屋　光輪寺本堂他

「ふえふき」といって祖父・父等7、8名が徒をくんで慰霊祭、村葬、社寺祭礼などに出かけていた。雅楽は口伝で継がれ、「越天楽」などは調子の異なった曲になっている。

114 土師獅子舞 (市)
❶土師獅子舞保存会　❷毎年スポーツの日直前の土日
❸姫路市香寺町土師1002　❹土師　大年神社、山王神社

天正19年（1591）正八幡神社祭礼次第写では獅子舞を担っていた。江戸時代から村の鎮守の祭礼を行い、現在の獅子舞は明治初期に犬飼より伝承したとの口伝があり13曲を伝承する。地区全戸の荒神祓も行う。

115 三枝草獅子舞 (市)
❶三枝草獅子舞保存会　❷不定期　❸姫路市夢前町前之庄
❹本条　天神社

前之庄の総鎮守天神社の秋季祭礼に三枝草地区が奉納する毛獅子舞、12曲を伝承し五穀豊穣を祈願する。中でも梯子獅子は7mの高さで勇壮な舞を行う。

116 荒川神社例祭風流 (市)
❶荒川神社祭礼行事保存会　❷毎年7月17日・9月1日・10月第3土日
❸姫路市井ノ口437番地　❹荒川神社

旧飾西郡伊和西郷（岩西郷）の総鎮守荒川神社で行われる稲作の過程に対応した祭礼行事。「田休みの祭り」（茅野輪くぐりと湯立て）、「八朔の祭り」（風鎮祭、神代巻絵解き）、「秋祭り」（小芋祭り）は氏子6地区から大幟と太鼓屋台を繰り出す。

117 天満力石の力持ち (市)
❶天満力石の力持ち保存会　❷毎年10月21日　❸姫路市大津区天満
❹大津区天満　神明神社・蛭子神社

享保年間より継承されると伝えられ市内唯一の行事。現在は魚吹八幡神社秋季祭礼の宵宮で村の二つの鎮守に宮入した際に、七斗石（97.5kg）の力石で主として「石担ぎ」の形態で力持ちを行う。

118 書写山圓教寺鬼追い会式 (市)
❶書写山圓教寺鬼追い会式保存会　❷毎年1月18日
❸姫路市書写1019−173　❹書写　圓教寺

開祖性空上人の没後、11世紀にはじまったと伝え、不動明王の化身である青鬼（乙天護法童子）と毘沙門天の化身である赤鬼（若天護法童子）が年頭行事として邪鬼を追い払う鬼の舞を書写山頂の白山権現社と魔尼殿で行う。

119 関の万灯 (市)
❶関自治会　❷7月24日　❸姫路市安富町関　❹関地区

稲の害虫防除、火伏せのためといわれ、かつて松明を4メートルから5メートルの竹の先に固定し、点火して川岸に並び立てて燃やし壮観であったが戸数が減少したため近年は鹿ケ壺付近で万灯を行っている。

120 朝日谷火揚げ（火上げ） (市)
❶朝日谷火揚げ保存会　❷毎年8月15日　❸姫路市勝原区朝日谷字坂田597−2　❹朝日谷地区の愛宕神社東の火揚げ場

盂蘭盆の火祭りの一つ。藁をつめ御幣竹を立てた竹かごを親柱に取り付け、かなつめ等の道具を用い人力で親柱を垂直に立てる。日没に子供たちが松明を竹かごに放り上げ、御幣竹に火がうつると北西(墓地)の方角に倒す。伝承によると、明応年間（1492〜1501）に大旱魃があり、村人は氏神の愛宕大権現に火揚げをして降雨を祈ったところ、大雨が降ったため、神へのお礼として毎年火揚げを行うようになったといわれる。

121 恵美酒宮天満神社秋季例祭台場練り (市)
❶恵美酒宮天満神社秋季例祭台場練り保存会　❷毎年10月8日・9日
❸姫路市飾磨区恵美酒14　❹恵美酒宮天満神社

江戸時代より飾磨津の橋東と呼ばれた地域を中心とする祭礼行事。正徳4年（1714）神輿製作・神幸式開始にともない氏子地区の風流が始まり、幕末から風流の中心となった太鼓屋台は巡行時や宮入時などに台場練りを行う。これは舁き手約80人のうち24人が太鼓屋台の台場下に入り肩で泥台を舁く力技。飾磨津の生業に関わる郷土の生み出した類例の乏しい独特の風流である。

122 金竹獅子舞 (市)
❶金竹獅子保存会　❷10月第2土曜・日曜
❸姫路市豊富町御蔭1197番地2　❹金竹公会堂

中世蔭山庄の総鎮守だった甲八幡神社の秋季例祭で奉納される民俗芸能。
二人立ちで舞われる雌雄の毛獅子で、五穀豊穣、子孫繁栄を祈念して奉納される。舞は、庭舞10曲と梯子獅子1曲2種で、雄、雌が交互に舞う形式をとっている。中でも梯子獅子はやや鋭角に組んだ高さ約7メートルの梯子上で神に雨乞いをすると伝承されている神楽を舞うものである。

123 新庄獅子舞 (市)
❶新庄獅子保存会　❷毎年10月スポーツの日、前々日の土曜日〜日曜日の2日間　❸姫路市夢前町新庄　❹円山神社

新庄の獅子舞は、油単の二人立ちの獅子舞で、村内の繁栄と安穏、豊穣を願うもの。村内を練り歩き休所で円山太鼓に合わせて獅子舞を披露し、神輿を先導して宮入した後、3切（3種）の獅子舞を奉納する。

124 津の宮鬼追い (市)
❶魚吹八幡神社武神祭保存会　❷—　❸姫路市網干区宮内193
❹魚吹八幡神社

魚吹八幡神社武神祭とも称されて継承されており、毎年氏子1地区ごとが鬼大鏡餅と桜橘の造花等を流しの芸能を行いながら神社に練り込んで献納し五穀豊穣を感謝し家内安全を祈願する献納行事と、それをうけて五鬼の鬼舞によって除災を行う追儺の行事が行われる。

125 正八幡神社龍王舞 (市)
❶正八幡神社龍王舞保存会　❷毎年第2土・日　❸姫路市船津町2985
❹船津町　正八幡神社

正八幡神社氏子地区のうち宮脇地区が奉納。平安時代からみられるいわゆる「王の舞」であり舞楽・猿楽との類似も指摘された中世の芸能を残す舞。天正19年（1591）祭礼次第写に「龍音舞」と記す。

126 広峯神社御田植祭附穂揃式・走馬式 (市)
❶広峯神社　❷毎年4月3日・18日　❸姫路市広嶺山52　❹広峯神社

近畿中国一帯に檀那場をもっていた広峯神社で豊作祈願に行う祭礼行事。3日の御田植祭は拝殿前に設けた早稲・中稲・晩稲の仮田で田人が耕作、早乙女が田植えの所作を行い傘鉾に集めた疫神を牛頭天王を祀る本殿に封じ込める。18日の穂揃式・走馬式は一連の祭礼行事であり、天王穂という早稲・中稲・晩稲を供え走馬を行い豊凶を占う。かつて数千人の参加があったという。

127 浜の宮天満宮秋季例祭屋台練り台場差し (市)
❶播州飾磨祭浜の宮天満宮台場差し保存会　❷毎年10月8日・9日
❸姫路市飾磨区須加40　❹須加　浜の宮天満宮

江戸時代より飾磨津の橋西と呼ばれた地域を中心とする祭礼行事。正徳4年（1714）神輿製作・神幸式開始にともない氏子地区の風流が始まり、幕末から風流の中心となった太鼓屋台は御旅所と宮入時に台場さしを行う。これは舁き手約80人のうち24人が太鼓屋台の台場下に入りサイテバチョーサの掛け声で24人の人力で屋台を高く差し上げる類例のない形態。安政2年起源と伝え、飾磨津の生業に関わる郷土の生み出した類例の乏しい独特の風流である。

128 別所西獅子舞 (市)
❶別所西獅子舞保存会　❷毎年第2土・日　❸姫路市別所町別所687−2
❹別所　日吉神社

播磨における獅子舞伝播の一拠点といわれ、市川流域の豊富・船津町、市川町甘地への伝播と大塩への伝播を伝える。雌雄2頭の二人立ちの毛獅子で12曲を伝承する。梯子獅子は失われたが伝播した金竹地区では継承されている。音曲の笛は地域住民の手作りで後継者に与えられている。

129 川上地区　「花だんご」 (町)
❶川上地区　❷毎年8月23日　❸神崎郡神河町川上620番地
❹川上　福田寺

花だんごは地蔵盆に川上地区の各隣保ごとに作られ福田寺境内にある「檀の地蔵」にお供えされる。壇の浦の戦いで入水された安徳天皇と平氏一族の冥福を祈るための地蔵で、平家落人の救済伝説の中で生まれた行事である。

130 市原神社獅子舞 (町)
❶市原神社獅子舞保存会　❷毎年10月第2月曜日
❸神崎郡神河町長谷361番地　❹長谷　市原神社

市原神社の秋の祭礼に奉納する獅子舞。江戸時代後期に近江商人から伝承されたと伝えられている。「荒神祓い」や6演目の獅子舞を披露する。

131 中村獅子舞 (町)
❶中村獅子舞保存会　❷毎年10月第2土曜日と翌日
❸神崎郡神河町中村165　❹中村　埋田神社

埋田神社の秋の例祭に奉納する伊勢代神楽系の獅子舞。13演目を伝承するが、特に「新太刀」は、真剣を使用した獅子舞で荘厳である。

132 根宇野獅子舞 (町)
❶根宇野獅子舞保存会　❷毎年10月第2土曜日と翌日
❸神河町根宇野1013−37　❹根宇野　大歳神社

大歳神社の秋の例祭に奉納する伊勢代神楽系の獅子舞。13演目を伝承するが、2人1組で行う「背継ぎ獅子」がうりものである。

133 川上大歳神社「くまびきうち」 (町)
❶川上地区　❷毎年12月第2日曜日
❸神崎郡神河町川上808−6番地　❹川上　大歳神社

「くまびきうち」は正月に飾り付けられるしめ縄づくりの作業のことである。藁打ちの藁を人の尻でたたき打ちしめ縄をなう方法で、播磨地域の民俗行事でもこの地域にしかみられない貴重な行事である。

134 獅子舞 (町)
❶桜獅子舞保存会　❷毎年10月スポーツの日の前々日
❸神崎郡福崎町高岡（桜地区）　❹桜　大年神社

江戸時代後期からの歴史を持つ桜区の獅子舞は、獅子・横笛・太鼓で構成されており、獅子の周りで囃子と呼ばれる子どもたちが、刀や長刀をもって踊る。
後継者不足により一時途絶えたが、近年復活の取り組みが始まっている。

135 法成就講 (町)
❶高橋区　❷成人の日の前日　❸神崎郡福崎町高橋　❹高橋区

一般的にとんどとして知られる行事で、普通「おとう」と呼ばれるが、高橋区のものは「法成就講」といわれている。開講の年代は不明であるが、文化2年（1805）以前と考えられる。組織が整い古式の行事が残っている。

136 浄舞 (町)
❶熊野神社浄舞保存会　❷毎年10月スポーツの日の前日
❸神崎郡福崎町西田原1539　❹熊野神社・岩尾神社

熊野神社の秋季例大祭で舞が奉納される。鼻高の赤装束に身を包んだ猿田彦が渡御の道筋や斎場をはらい清める役目をする。

137 追儺 (町)
❶妙徳山神積寺追儺式保存会　❷成人の日
❸神崎郡福崎町東田原1891　❹東田原　神積寺

鬼追いとして知られ、修正会の中で行う邪を払う行事で、神積寺の本尊薬師如来の使者「山の神」と家来の「赤鬼」「青鬼」が松明を振りかざして舞う。鎌倉時代より始められたと伝えられている。

138 浄舞 (町)
❶余田大歳神社浄舞保存会　❷毎年10月スポーツの日の前日
❸神崎郡福崎町八千種（余田地区）　❹余田大歳神社

余田大歳神社の秋季例大祭で行われる。
鼻高の赤装束に身を包んだ猿田彦が清めの舞を舞う。この舞には獅子舞が伴う。

139 かくしほちょじ (町)
❶鍛冶屋区　❷成人の日の前日から当日
❸神崎郡福崎町八千種（鍛冶屋地区）　❹八千種　鍛冶屋地区

一般的にとんどとして知られる行事で、毎年鍛冶屋区の全戸が参加して行われる。組織（とうの親の親、とうの親など）や狐追いなどの古式の行事が残っている。諸行事の中でも、子どもたちが塔である「ほちょじ」を村のどこかに隠し、それを大人が探し出すという「ほちょじかくし」が特徴的。

140 相生ペーロン祭 (市)
❶相生ペーロン協会　❷毎年5月の最終日曜日　❸相生市　❹相生市内

播磨造船所内の従業員の慰安として始まった行事であるが、しだいに盛んとなって「海上大運動会」と称されるようになった。それが、昭和23年（1948）には「相生みなと祭」と改められ、そして、昭和38年（1963）には「相生ペーロン祭」に改められて現在に至っている。

141 河内神社の獅子舞 (市)
❶河内神社　❷毎年10月第1日曜日　❸たつの市新宮町牧890
❹牧　河内神社

河内神社の秋祭りに奉納する獅子舞。獅子は2人立ち。牝獅子とあやこが前転する「法螺」、雄獅子が横に1回転する「しゃんぎり」など7演目が伝わる。

142 鳥撫荒神社獅子舞 (市)
❶天和獅子舞保存会　❷毎年10月第2日曜日及びその前日
❸赤穂市鵜和266　❹鵜和　鳥撫荒神社

秋祭りに奉納する獅子舞。獅子舞は16種類あり、龍野椰神社のものを基礎にしているが、長い継承の間に他地区の所作などを取り入れ、鵜和独特の郷土芸能となっている。

143 お幡入れ・法伝哉 (町)
❶平方法伝哉保存会　❷不定期　❸揖保郡太子町佐用岡624
❹鵤　斑鳩寺

竹のしなりを利用して威勢よく流れ幟を立てるお幡入れと、踊るように太鼓・鉦を叩く法伝哉から構成される。
聖徳太子が物部守屋を滅ぼした戦勝凱旋の様子を表したものという。
江戸時代前期には鵤庄のお盆の行事だったが、現在では斑鳩寺のご開帳や落慶法要などに奉納する。

144 高嶺神社お田植祭・穂揃祭 (町)
❶高嶺神社　❷4月第2日曜日　❸赤穂郡上郡町山野里字天王山
❹山野里　高嶺神社

高嶺神社に伝わる豊作祈願の神事。男多雨えさーは、田男・早乙女が神殿前の仮田での田植えを行う。穂揃え祭は、寄進された108本の稲穂などを神前に供える。

145 高嶺神社獅子舞 (町)
❶山野里高嶺神社獅子舞保存会　❷毎年10月第2日曜日
❸赤穂郡上郡町山野里字天王山　❹山野里　高嶺神社

町内唯一の雄獅子として江戸期より伝承されてきたと考えられる。野獅子の荒々しい芸態で道中舞は、一連の流れとして胴幌内で交替して舞い、演劇的要素は少なく、悪魔ばらいをする獅子舞本来の姿に徹した舞いである。

146 平松武者踊り (町)
❶平松武者踊り保存会　❷4年ごと。お盆に行われる。前回は平成12年8月14日に行われた。　❸佐用郡南光町平松　❹平松　吾勝神社

郡内唯一の仕組み踊り。太功記、鎌倉三代記、安達ヶ原、忠臣蔵などの歌舞伎の重要場面を踊りに仕込み、槍、刀、鉄砲その他の道具を持って、浄瑠璃の台本そのままを天満節という音頭に合せて歌い、櫓を中心に輪になって踊る。

147 横山チャンチャコ踊り (市)
❶横山チャンチャコ踊り保存会　❷毎年9月17日
❸宍粟市一宮町横山　❹横山　淡島神社、横山神社

別名神子踊りともいわれ、毎年9月17日の横山神社の秋祭りに奉納される。踊りは10名の華麗な衣装を着た児童からなり、太鼓・鉦を打ち笛を鳴らして踊られる。音頭の文句は室町時代の小歌を源流としているとされるなど、中世的な要素を色濃く残す貴重な民俗芸能である。

148 チャンチャコ踊り (市)
❶鷹巣地区　❷10月9日　❸宍粟市千種町鷹巣　❹鷹巣　八幡神社

期限も由来もはっきりしていない。鷹巣自治会の踊りは、明治時代までは原型のまま伝承されていた。しかし、その後途絶えていたものを、昭和52、3年頃に復元したものである。

149 チャンチャコ踊り (市)
❶波賀チャンチャコ踊保存会　❷8月15日以降最も近い日曜日
❸宍粟市波賀町安賀　❹波賀町安賀　八幡神社

波賀町安賀の八幡神社で5か村が奉納する。風雨が続きそれを鎮めるため神に祈り願いが叶ったことに始まるという。入踊り、宝踊り等の太鼓踊りを奉納する。

150 水谷明神社の獅子舞 (市)
❶水谷区　❷10月第2日曜日　❸宍粟市波賀町上野　❹上野　明神社

元来、上野地区に於て江戸末期の頃から行われ、宝殿神社の神楽獅子（かぐらじし）として舞われ、お盆に一般家族の庭で先祖を敬う為舞っていたという。明治末期、上野・水谷地区で交互に舞われ、次第に水谷地区が受け継いだ。以来、水谷の明神社の神楽獅子として五穀豊穣、家内安全を祈願し現在に至る。屋島、毬取れ、法螺返し、花掛り、剣の舞などがある。

151 チャンチャコ踊り (市)
❶原チャンチャコ踊り保存会　❷8月24日風除けの盆
❸宍粟市波賀町原　❹波賀町原　八幡神社

菅笠をかぶった子どもが、歌い手と鉦の音に合わせ、腰太鼓を叩きながら踊る。「ユリ踊」と「カヤシ踊」の2種の基本動作を繰り返し踊る。演目は、「堺の濱」「道のはた」「津山踊」「登中踊」等数種ある。

152 宇原岩田神社奉納獅子舞 (市)
❶宇原岩田神社奉納獅子舞保存会　❷10月上旬（9年のうち3年）
❸宍粟市山崎町宇原929番地　❹宇原　岩田神社

宇原岩田神社の秋の祭礼に奉納する獅子舞。梯子獅子の伝承は稀少価値が高い。また毛獅子であり、低い姿勢で生きているように舞う。

153 御幸祭 (市)
❶波賀町「御幸」保存会　❷正月の籤により決定、行われる年は10月第3週の日曜日　❸宍粟市波賀町　❹波賀八幡神社

主に、神輿・神子・騎馬の行列を行う。御幸祭を執り行う役柄に「一ツ物」があり、江戸時代初期の承応年間の記録があるので、それ以前から行われていたものと考えられる。
神輿渡御は例祭の15日前に御神籤を引いて有無を決めていたが、現在は1月1日に御神籤を引いて決めている。御神幸のあるときは、陸尺小神子5人、太刀、鉾、旗持ち等の役に至るまで古来より定まっていて代々相伝えられていて今に至っても変わることがない。

154 大名行列槍振り (市)
❶大名行列保存会　❷毎年11月3日　❸豊岡市出石町内町1番地
❹宵田地区

槍振りの起源は、文久2年（1862）に幕末の参勤交代制が緩和され、大名の妻子の帰国も許された際、あるいは廃藩のおりに最後の行列を盛大に飾るためにつれかえったとも伝えられる赤坂奴が、城下宵田町に逗留したおり、町民有志がこれを伝授したといわれる。行列諸道具も廃藩後払い下げられている。現在では保存会が結成され槍振り技術が伝承されている。

155 幟まわし (市)
❶宮内少年会　❷毎年5月5日　❸豊岡市出石町宮内1141番地
❹出石神社

5月5日の端午の節句に宮内では、天日槍が氾濫する濁水を瀬戸で切り開いて引揚げて来た時、幟を立てて迎えたという伝説に因み、男子出生の節は幟を立て祝い餅まきを行う（もとは5月2日）。最初出石神社の前で幟を持つ者が円形を作り、その中に真竹に一ヵ所穴を開けたものを吹き鳴らし、歌を唄い廻る。次に区内の男子出生者の家に順次廻り、餅まきを行う。

156 雷神社の御田植祭 (市)
❶佐野区、上佐野区、納屋区　❷毎年4月29日　❸豊岡市佐野
❹佐野　雷神社

往古から豊作を祈る神事である。牛飼役が鋤で田ならしの行事を行ったあと、円陣をなし歌詞に合わせて和泉桜の葉を中に放り投げる。

157 轟大神楽 (市)
❶轟大神楽保存会　❷毎年10月第2日曜日　❸豊岡市竹野町轟
❹轟　森神社

森神社の秋の大祭に奉納される獅子舞。成立年代は不詳だが、江戸中期にはすでにあった。獅子舞の踊り手は2名、囃子方は太鼓1名と笛数名である。神言奏上のあと、弊の舞、乱れ獅子、剣の舞、歓喜の舞を舞う。本祭には氏子の家を回り、御旅所では天狗とお多福がからむ遊び獅子が奉納される。散楽風の曲芸などを演じる。

158 虫生のささ囃子 (市)
❶虫生区　❷毎年10月の第1又は第2日曜日　❸豊岡市但東町虫生
❹虫生　安牟加神社

安牟加神社の祭礼時に奉納する中世の要素を含んだ風流太鼓踊り。元は7月7日の白山祭に豊作と虫除け、雨乞い行事として奉納していた。

159 奈佐節（六条さん） (市)
❶奈佐節保存会　❷不定期　❸豊岡市奈佐地区　❹—

西本願寺17世法如上人を迎えた踊りという。

160 田ノ口の賽の神祭 (市)
❶田ノ口区　❷毎年1月の成人の日　❸豊岡市日高町田ノ口　❹—

毎年1月の成人の日に村の入口に祭られた賽の神に大きなわらじとぞうりを片方ずつ作り奉納する行事である。以前はこの日に仕事始めとして「綱打」の行事を行っていたことから、賽の神信仰と重なって現在の形になったと思われる。かつては1月15日の小正月に行われていた。

161 そうだろ節とヤチャ踊 (市)
❶神鍋民謡保存会　❷特になし　❸豊岡市日高町西気、清滝地区
❹西気　清滝地区

日高町の西気、清滝地方に伝わる民謡。享保年間に、山林の所有権を巡って騒動がおき、解決した際に誰歌うともなく歌いだされたのが始まりといわれる。但馬地方の代表民謡として保存する価値が高い。

162 松岡の御柱祭 (市)
❶松岡区　❷4月14日　❸豊岡市日高町松岡　❹—

毎年4月14日に松の上部に女竹と藁で作ったお鉢を取り付け、十二所神社前の川原で燃やす行事。よく燃えた年は豊作といわれる。俗称、婆焼祭り。周辺の区でも行われていたが、現在は松岡区のみ行われている。

163 入江きつねがり (町)
❶入江きつねがり保存会　❷毎年1月8日
❸美方郡香美町村岡区入江　❹入江地区　観音堂

毎年1月8日にとんどが行われ、その後に鉦・太鼓を打ち鳴らし、五穀豊穣と区内の安全を祈願する小正月行事である。「嫁の尻有張り」行事と結びつき行われている。疫病や災禍をきつねに見立てて、これを村外に退去してもらい、村外から入ることを防ぐ民間信仰行事がほとんど見受けられなくなる中、貴重な行事を継承している。

164 お当餅つき (町)
❶耀山区　❷毎年12月31日　1月3日　❸美方郡香美町村岡区耀山
❹耀山　八坂神社

12月31日、お当当番等が正月の餅をつき、全戸に配る。1月3日、当番は鏡餅を背負い八坂神社境内の観音堂に運び込み、お当の新旧引き継ぎ式を行う。新当番は、鏡餅を自宅に持ち帰り全戸、寺に子どもが配る。

165 お当餅つき (町)
❶大糠区　❷毎年1月1日　1月3日　❸美方郡香美町村岡区大糠
❹大糠　公会堂　大糠神社観音堂

1月1日公民館前で揃いの法被を着た6人のつきてにより餅を伊勢音頭に合わせ搗く。ついた餅を各戸に配る。1月3日、大糠神社観音堂に鏡餅をお当当番が運び新旧当番引き継ぎ式の後、新当番が公民館に持ち帰り全戸に切り分け、子どもが配布する。

166 相岡芸おどり (町)
❶相岡芸おどり保存会　❷—　❸美方郡香美町村岡区相岡　❹—

歌舞伎や任侠ものの外題の一部を刀、なぎなた等をもち、輪になったりして複数のものが踊る風流芸踊り。温泉町の丹土はねそ踊りなどとの共通点をもつ。香美町村岡区小代区に複数見られる。

167 和田しょうぶ綱引き (町)
❶和田区　❷毎年6月第1日曜日　❸美方郡香美町村岡区和田
❹和田　皇大神社

昔矢田川が氾濫しできた大池に大蛇が棲み人々に危害を加えていたが、旅僧が退治し、しばらくは平和な日々を送った。しかし、大蛇の祟りか、風水害等が続いたので、大池のほとりに祠を建て、池の主の形見として蓮の葉を神体に祀った。和田の菖蒲綱は、この大蛇に似せた綱をつくり、氏神皇大神社に奉納し信仰の証しとし、村の安泰、五穀豊穣を願う神事である。

168 川下祭り（渡御行列） (町)
❶宇都野神社　❷毎年7月　海の日と前日第二日曜日
❸美方郡新温泉町浜坂　❹浜坂　宇都野神社

京都祇園祭と同じ厄祓いの祭りで、神輿や鉾・麒麟獅子舞などの出し物が町内を練り歩く行事である。岸田川河口に設けられた御旅所では、麒麟獅子舞やお浜清めの神事や浦安の舞などが奉納される。

169 厳山権現 (町)
❶飯野、塩山区　❷8月24日　❸新温泉町飯野　❹飯野　厳山神社

但馬では珍しい神仏習合の型式を今に伝えている。祭りは前日に宮司がこもり堂で一夜を過ごし、昼は山伏と御輿が各戸を巡る。護摩供養、湯立て、奉納相撲へと続く。

170 海上傘踊 (町)
❶海上傘踊り保存会　❷毎年8月14日〜15日　❸新温泉町海上　❹海上

国指定重要無形民俗文化財である鳥取県国府町の「傘踊り」と同系列で徳川末期の伝承である。二人一組になって1／2拍子の曲に合わせて勇壮活発に踊る所作は抜群の映えがあり、県下でも広く知れ渡っている。

171 岸田さえもん踊 (町)
❶岸田さえもん踊保存会　❷毎年8月13日〜15日　❸新温泉町岸田
❹岸田

鎌倉時代に一遍上人が「さいもん」と名付け、念仏踊りを普及したと伝えられている。「さえもん踊」は伝統の古さ、優雅さにおいては自眉的存在として定評がある。

172 中辻芸踊 (町)
❶中辻芸踊保存会　❷毎年8月13日〜16日　❸新温泉町中辻
❹中辻　常盤神社

この踊りは盆踊りで仏様の供養として手踊りの合間に踊る。全て男性で踊り、男役は前掛けにもろ肌脱ぎ、女役はねごまき上はちまき、たすきがけ姿で踊る。

173 湯村の火祭り (町)
❶湯区子ども会　❷8月24日　❸新温泉町湯　❹湯

愛宕神社の本祭と天満宮の宵祭りが同時に出来る時間から始まる火祭りである。「ジーロンボ・ターロンボ」は「次郎坊」「太郎坊」に節をつけて歌う。

174 湯村の菖蒲綱引き (町)
❶湯村温泉まつり奉賛会　❷6月第1日曜日　❸新温泉町湯　❹湯

温泉の恵みに対する感謝と五穀豊穣及び子どもたちの健やかな成長を願い、上下に別れ綱引きをする。

175 歌長大神楽 (町)
❶歌長大神楽保存会　❷毎年9月30 日〜10月1日　❸新温泉町歌長
❹歌長　歌長神社

天保年間以前より歌長に伝わる神楽で「獅子舞」と「立て物」とで成立する。但馬では歌長と浜坂町諸寄の二カ所のみである。

176 塩山撞木塔婆歌念仏 (町)
❶塩山区・飯野区　❷8月7日から8月25日　❸新温泉町塩山
❹吹上神社境内

仏教行事の一つで「六斎念仏」に属するものです。五穀豊穣を祈り、5月の農作業の慰安を兼ねて若人が村芝居をし氏神様にこもっていました。次の夜からは念仏通夜で念仏を唱えていました。

177 お走り祭り (市)
❶お走り祭り保存会　❷毎年4月15日に近い土・日曜日
❸養父市養父市場　❹養父神社・斎神社ほか

養父神社のみ輿が約20km離れた斎神社に詣出て、斎神社のみ輿と練り合わせをする行事。途中の大屋川で川渡御を行い、三谷の厳島神社で斎神社からの出迎えのみ輿と出合い、建屋で1泊する。翌日斎神社に詣出た後、養父神社まで戻る。祭りの様子を描いた明治32年の絵馬が斎神社に奉納されている。

178 御井神社まいそうまつり (市)
❶御井神社まいそうまつり保存会　❷毎年1月14日
❸養父市大屋町宮本　❹宮本　御井神社

拝殿前に円陣を組んだ氏子の輪の中に右手に木箱、左手に鉾を持った鬼役が躍り出て、氏子は燃え盛る松明で鬼の木箱を激しく叩く。火の粉が飛び散るさまは夜の寒さを忘れさせる。「まいそうな」、「ないそうな」との掛け声で木箱を叩くところから「まいそうまつり」と呼ぶようになったと伝えられる。

179 葛畑の庚申待ち (市)
❶葛畑地区　❷—　❸養父市葛畑　❹葛畑　荒御霊神社

干支でいう「かのえさる」に行なう信仰行事で、庚申を信仰すれば、長寿、病気治癒、商売繁盛、五穀豊穣がかなうという。年6〜7回ある庚申の日に荒御霊神社境内にある庚申堂・籠堂で行なわれる。（非公開）

180 丹戸のお当 (市)
❶丹戸地区　❷—　❸養父市丹戸　❹丹戸　皇太神社

1月6日、地区の当番の家に集まり、「ヤッ」「ホッ」「ヘッ」のかけ声で餅つきをして5升の大きな鏡餅と1日の餅を5等分した粟餅を作る。翌7日に大きな鏡餅を「ユルダの木」を割ったもので挟み、粟餅は5つ重ねて紐で括り、氏神さんにお供えする。お供えが終わると餅を阿弥陀堂に運び、読経を受けたあと地区のふたつの組で餅を交換し、当渡しが行われる。（非公開）

181 別宮のお綱打ち (市)
❶別宮地区　❷毎年1月9日　❸養父市別宮　❹別宮八幡宮

1月9日、各戸が稲わらを持ち寄り、しめ縄をつくる。初めは三人がかりで三つ組みにない、直径30cm、長さ約15m、重さ80kg程度の龍のような大きなしめ縄をつくる。これを「お綱屋敷」に運び、上下の組に分かれて7回綱引きをし、豊凶を占う。その後村の入り口の「カンザキの丘」の大ケヤキにつるし、その年の豊作や無病息災を祈願する。

182 安井の大草履つくりぞめ (市)
❶安井地区　❷—　❸養父市安井　❹安井山神神社

7人がかりで作った1.2mの大草履、またあわせて作った20cmの小草履を高さ3mの2本の青竹に括りつけ、神社に奉納する。その後、草履を安井と出合の村境に運び、村の守り神として安置される。大草履も小草履も作られるのはいずれも片足だけである。

183 山東町盆踊り (市)
❶山東町民踊保存会　❷毎年7月〜8月
❸朝来市山東町中央公民館ほか各地区　❹山東町中央公民館ほか各地区

盆の先祖供養と村人の交流の場として江戸時代中期以降伝承されてきた。踊りは、天満、三つ拍子、四つ拍子、祭文、扇子おどりの5種類からなり、音頭は「亀造口説」「長崎甚句」「矢口渡し」「坊主落し」「八百屋お七」「那須与一」「朝来親民松岡新右衛門」の7種類からなる。毎年8月14日をかわきりに10日間、地区の公民館やお寺の境内で櫓を囲んで音頭と太鼓に併せて踊る。

184 羽渕獅子舞 (市)
❶羽渕区　❷毎年スポーツの日　❸朝来市羽渕　❹羽渕　一宮神社

江戸時代に伝えられ、播州吉富からの移入、市川町甘地の獅子舞の系統と言われる。毎年秋の例祭に氏神の一宮社に奉納されて村内安全を祈る。
牡丹の花笠、赤だすきという衣装で化粧をした童子がふたり、囃子として獅子の左右につく舞と、囃子のつかない舞に分かれる。囃子の持ち物として扇子、御幣、毬、なぎなた、はたきなどがあり曲目によって多彩である。

185 生野踊り (市)
❶生野踊り保存会　❷毎年8月14〜15日　❸生野町　❹—

江戸時代に、生野銀山の山師が盆休日における鉱夫の慰安や、鉱山で死んだ人の供養のために京都から踊りの師匠を招き、振り付けたと伝わる。代官・役人の妻女は顔を深々と編笠で隠し、庶民の中に混じって踊ることができたとされる。
一列になって連を組み、三味線、太鼓、尺八、鉦に合わせて口説きながら踊る。現在も初盆の家の前で必ず踊り、故人を供養する。

186 多々良木扇子踊 (市)
❶多々良木区　❷毎年8月14日　❸朝来市多々良木　❹—

1411年（応永18年）に、多々良木村にある八幡神社の改築を記念して踊られたのが始まりである。「雨乞い」や「豊作祈願」のために踊り継がれてきた。第2次世界大戦中に途絶えていた時期もあったが、1977年（昭和52年）に古老が中心となって復活させ、お盆の時期に踊るようになった。
菅笠、浴衣がけで手に扇子を持ち、太鼓に合わせて踊る優雅なものである。

187 立脇獅子舞 (市)
❶立脇区　❷毎年スポーツの日　❸朝来市立脇　❹立脇　一宮神社

立脇の獅子舞も吉冨の系統である。
10月の秋の祭礼に地区内の一ノ宮神社で奉納したのち、各氏子宅を回り、区内の広場にて奉納の演舞を行う。
「羽渕獅子舞」の重厚な調子と比べ、動きの激しさに特徴があるといわれる。そのため獅子頭も比較して小ぶりであり、動きやすさを重視しているものと思われるが曲目は共通したものがある。

188 宮神楽 (市)
❶宮区　❷スポーツの日　❸和田山町宮　❹宮　石部神社

1647年（正保4年）、円明寺石垣築城の際に尾張から来ていた石工が、村人に伊勢音頭とともに教えたものと伝えられている。静かに神前に奉納する質素な演技が特徴の一つであり、一般的な賑やかに飛び跳ねる勇壮な神楽獅子舞とは一を画している。幕切り、悪魔祓い、仕立の舞、花掛かり、剱の舞、鈴の舞、昇殿の舞を伝承する。

189 裸祭 (市)
❶熊野神社裸祭保存会　❷11月3日　❸丹波市青垣町遠阪1642
❹遠阪　熊野神社

祭礼には、旧遠阪村の遠阪・山垣・中佐治の3か村をはじめ、神楽谷の4か村、柴村が立ち会う。かつては氏子の村から15歳になった男子一人ずつ12人が、村を流れる今出川で身を清め、七五三縄を腰に張って素裸で神事を奉仕したという。現在では裸祭保存会が結成され伝承している。

190 粥占神事 (市)
❶折杉神社氏子　❷2月3日　❸丹波市市島町徳尾　❹徳尾　折杉神社

節分当日折杉神社において、氏子が集合の上、神前において五穀豊穣の祈願祭を厳修ののち、境内において大鍋に米とともに、竹管を13本入れて粥を炊く。また、のこり火の中に一寸立方のカシの木片を13個投入する。

191 柏原おどり (市)
❶柏原おどり保存会　❷現在はイベントや要請がある場合に披露
❸丹波市柏原町　❹—

元禄8年（1695）大和国松山城（奈良県・大宇陀町）より、転封し柏原藩主となった小田信休は、正徳4年（1714）に幕府の許可を得て、藩邸を造営することができた。その竣工を喜び祝って、藩士が領民とともに踊り明かしたのが柏原踊りの起源だと伝えられている。

192 大新屋新法師おどり (市)
❶大新屋地区　❷10月の第2土曜日辺りの宵宮の日
❸丹波市柏原町大新屋　❹大新屋　新井神社

新しく仏門に入った稚たちの踊りであると解され、雲水の伝えたものと考えられる。歌詞の内容から考察して、室町時代の発祥とも言われ、定かではないが、慶安年間（1648〜1651）頃より伝わったとも言われている。

193 南多田新発意おどり (市)
❶南多田新発意踊り保存会　❷10月の第2日曜日前後
❸丹波市柏原町南多田　❹南多田　大歳神社

室町時代の頃から、天下泰平・五穀豊穣を祈願して神社や寺に奉納したものであるが、後世、甚だしい干ばつにあい、農民の命がけの水乞いの時、旅の雲水からこの踊りを教えられ、以後、雨乞踊りとなったとも言う。黒染法衣の新発意が先導する風流太鼓踊りで8曲を伝承する。

194 稲塚風流神踊 (市)
❶稲塚風流神踊保存会　❷現在は休止　❸丹波市春日町稲塚
❹大野　八幡神社　稲塚　御歳神社

稲塚に伝わる風流太鼓踊りで、別名ザンザン踊りという。丹波地方に多い新発意踊りと同系のもので、音頭取3、新発意4、太鼓4、かんこ2が長方形、円形となり、道歌、願の踊など8曲を踊る。五穀豊穣・氏子安泰を願って氏神御歳神社の例祭に奉納するほか、慶事などに随時披露している。

195 青田大歳神社奉納神楽舞 (市)
❶青田神楽保存会　❷10月の第2土、日曜日　❸丹波市山南町青田
❹青田　大歳神社

獅子頭を使ういわゆる伊勢太神楽系の獅子舞で、四方舞、剣の舞、背継ぎなど7演目を伝承し、神社での奉納のほか、各戸の荒神祓いを行う。山南町内には金屋・岩屋・井原・玉巻などに同様の獅子舞が伝わっており、青田は金屋から教えを受けたとの言い伝えがある。

196 蛇ない (市)
❶応地地区　❷1月の第2日曜日　❸丹波市山南町応地
❹応地　大歳神社

民俗学上江戸時代に始められたとする説が有力である。また、この蛇には村の前を流れる佐治川の氾濫を鎮めたいとの願いや、その被害を最小限にとめたいとする一種の魔除けの意味が込められていると考えられている。

197 常勝寺　鬼こそ (市)
❶常勝寺鬼こそ保存会　❷2月11日　❸丹波市山南町谷川
❹谷川　常勝寺

常勝寺の鬼こそは丹波地域において唯一伝承されている鬼追いである。また、正月から小正月にかけて行われる鬼追いは兵庫県下では天台宗や真言宗等の寺院や神社で行われますが、その大半の鬼が追われるものではなく、目に見えない災厄を追い払ってくれる鬼である。常勝寺の鬼は追われる鬼ではなく、由来や厄払いのために鬼役をつとめることなどからも、災いではなく幸いをもたらすものと考えられる。

198 稲畑式三番叟 (市)
❶稲畑式三番叟保存会　❷10月の第2日曜日
❸丹波市氷上町稲畑　❹稲畑　奴々伎神社

氏神に奉納する神事芸能で、翁は狩衣姿で白面をつけ、黒式尉は剣先烏帽子で黒面を着けて踊む。千歳は面を着けない。裏方には鼓2、笛2、大謡2、拍子1、小謡数名がいる。近隣の佐野矢降神社、上新庄天満神社などにも同系統の三番叟が伝承されており香住町と並ぶ三番叟の1伝承地域をなしているが、県下では数少ない芸能である。

199 上新庄式三番叟 (市)
❶上新庄式三番叟保存会　❷10月の第2土、日曜日
❸丹波市氷上町上新庄　❹上新庄　天満神社

上新庄式三番叟は氷上町内の他の式三番叟と同じく天満神社に伝承され、神事芸能として行われている。

200 佐野式三番叟 (市)
❶佐野式三番叟保存会　❷10月の第2日曜日（今後、該当者が無い場合は検討を要する）　❸丹波市氷上町佐野　❹佐野　矢降神社

佐野式三番叟は従来矢降神社の例祭に氏子が毎年奉納してきたものであったが、戦後一時中断したものを近年保存会を結成し、復興したものである。

201 谷村新発意踊 (市)
❶谷村新発意踊り保存会　❷隔年　10月の第2日曜日
❸丹波市氷上町谷村　❹谷村　妙林権現神社　新郷　伊尼神社

谷村の妙林権現神社に伝わる風流太鼓踊りで伊尼神社の祭礼に奉納する。起源は不詳であるが念仏踊りの変化した雨乞踊りと見られる。丹波、特に旧氷上郡に多い新発意踊りの一つで、道謡、屋敷おどり、高田おどりなど数種あり、頭1、踊り子10数名、太鼓打ち3〜4、かんこ打ち数名、音頭取3で踊る。

202 中野奴行列 (市)
❶中野奴行列保存会　❷10月の第2日曜日　❸丹波市氷上町中野
❹中野　内尾神社

氷上町中野区民に伝承され、総社内尾神社の例祭に行われる信仰の露払（先導）をする。

203 成松「造り物」の行事 (市)
❶成松造り物保存会　❷8月23〜24日　❸丹波市氷上町成松
❹成松　愛宕神社

成松造り物行事は、成松愛宕神社大祭の奉納行事である。現在、成松区及び常楽区の一部で構成される保存会が結成され、11組と有志1組（計12組）で制作、競演されている。制作はお盆すぎからはじまり、題材・材料とも各組秘密裡に進め23日早朝までに仕上げる。

204 水無月祭の祭礼と打込囃子 (市)
❶住吉神社　❷毎年7月最終金曜日・土曜日　❸丹波篠山市川原
❹川原　住吉神社

水無月祭では道中囃子と打込囃子という2種類の囃子が行われる。道中囃子は山車巡行の際に乗り子の子どもたちによって鉦や太鼓、笛が演奏される。打込囃子は宮入後に境内で奉納されるもので、締太鼓、小鼓、三味線、胡弓、笛などの楽器が演奏される。打込囃子は、明治30年代に福住村の遠山宗九郎が各集落の山車ごとに作詞作曲したことが始まりであると伝えられている。

205 デカンショ節 (市)
❶デカンショ節保存会　❷毎年8月15日、16日（デカンショ祭り）
❸丹波篠山市北新町　❹—

篠山の民謡「デカンショ節」は、江戸時代から篠山一帯で親しまれていた「ミツ節」という盆踊り唄が元唄といわれ、明治中期にミツ節の別名として篠山城下で唄われた「デッコンショ節」が、篠山出身の学生によって東京の学生仲間へ持ち込まれ愛唱されるようになる。それが篠山へ里帰りし、今にデカンショ節として唄い継がれている。

206 鱧切祭 (市)
❶八幡神社　❷毎年10月第3土曜日　❸丹波篠山市沢田
❹沢田　八幡神社

沢田八幡神社の祭礼に行われる大蛇退治を模した神事である。往古に付近にあった沼沢地を開拓した偉人の徳をたたえ、伝承されてきたと言われる。前沢田・北沢田の両集落にあっておとうに当たった家では、各々古式に則った珍味を用意し、舞台を整え、大蛇になぞられた鱧を引き出し斬りつけ退治の真似事をする。

207 池尻神社人形狂言 (市)
❶池尻人形狂言保存会　❷毎年10月第2日曜日　❸丹波篠山市町之田
❹町之田　池尻神社

池尻神社の祭礼に奉納される人形浄瑠璃。演目は「神変応護桜」のみで、神社に立ち寄った若者が八岐大蛇の人身御供になろうとしていた娘を祭神大山隅命の神威を借りて大蛇を退治し、助けるというもの。前半は謡曲調、中程は浄瑠璃調、説教節調、後半は謡曲調と場面により調子の変わるのと人形浄瑠璃の古い形態を残していることが特徴。

208 八朔祭の造り山 (市)
❶熊野新宮神社　❷毎年8月31日、9月1日　❸丹波篠山市二の坪
❹二の坪　熊野新宮神社

熊野新宮神社の宵宮に、造り物を乗せた屋台が宮入する。これは氏子である7つの集落がそれぞれ趣向を凝らして仕立てた造り山で、祭礼の見所となっている。もとは収穫された野菜を神前に供えていた風習が、延宝年間頃より造り物に変わり、それを屋台に乗せて神社に引き入れるようになったという。

209 本郷春日おどり (市)
❶春日おどり保存会　❷毎年10月第3日曜日　❸丹波篠山市本郷
❹本郷　春日神社

旧草山村の氏神春日神社の祭礼に奉納される民俗芸能で、子供が紺地の着物を肌脱ぎした長襦袢姿になって、境内に並べられた演台の上で踊る。曲目は、「豊年おどり」「宰相頼朝さん」等18種が伝わり、持ち物の種類により「手踊り」「御幣踊り」「扇子踊り」の3種類に分かれる。近世末の「お陰踊り」との関連が考えられ、県内では類例がない。

210 春日神社祭礼 (市)
❶篠山春日神社祭礼保存会　❷毎年10月第3土曜日・日曜日
❸丹波篠山市黒岡　❹黒岡　春日神社

神幸の渡御行列、9基の鉾山巡行、8基の太鼓みこし巡行から構成され、城下町祭礼の姿をよく残している。成立時期は江戸時代前期の17世紀中頃で、鉾山は京都祇園祭の鉾の形態を導入しており、篠山藩内の農村部の祭礼に大きく影響を与えた。太鼓みこしは幕末頃に王地山焼の陶工たちが祭礼に賑わいを添えるために始めたとされる。丹波篠山市内の祭礼の基盤を示すものとして貴重である。

211 下司（くだし）大名行列 (市)
❶塩田下司（しおたくだし）大名行列保存会　❷不定期　❸淡路市下司
❹里　春日神社

村の鎮守春日神社の春の祭礼に奉納されている。「ヨイヤナ」で親しまれているこの行列は江戸時代中期の「宿入り」の礼法、所作を演じる。道中で唄われる馬子唄は他に類がない独特なリズムである。

212 中田伊勢の森神社「梯子獅子」 (市)
❶中田伊勢の森保存会　❷4月上旬の日曜日　❸淡路市中田
❹中田伊勢の森神社

伊勢の森神社の春のお祭りで奉納される舞の一つ。谷から谷を渡って張られた綱と地上20mの梯子の上で演ぜられる獅子舞の妙技は古き伝統を誇る。

213 柱松の「柴燈」 (市)
❶鮎原栢野薬師堂　❷毎年8月16日　❸洲本市五色町鮎原栢野298
❹鮎原栢野　薬師堂

毎年8月16日の夜、栢野薬師堂で行われる行事で、長さ10数mの松の柱に柴木、麦わらなどを巻いた大松明に昼間レンズで採った種火を点火し、暗闇の中で燃え盛る神秘的な炎とともに霊に祈りを捧げ、仏を送る珍しい送り盆の行事。

214 長林寺の「つかい檀尻」 (市)
❶都志万歳町内会万歳ねりもの団　❷毎年7月17日
❸洲本市五色町都志万歳975　❹都志万歳　長林寺

毎年、長林寺の本尊・十一面観世音菩薩の縁日7月17日の夜実施。乗り子二人を乗せた檀尻（布団太鼓）で、担ぎ手が縦、横、逆さ、一回転と操り、横がき、縦がき、千鳥、横水車、しゃちほこなどの技を披露する。室町時代文明8年（1475）に時の住職が出身地である東北地方の寄祭を導入したのが始まりという。

215 鳥飼八幡宮の「大綱引き」 (市)
❶鳥飼八幡宮　❷10月第3日曜日　❸洲本市五色町鳥飼中314
❹鳥飼中　鳥飼八幡宮

鳥飼八幡宮の秋季大祭に行う。江戸期の「淡路国名所図絵」に記載有り。宵宮の午前中に、氏子たちによって作られた直径80cm、長さ約30mの大綱を浜と陸に分かれ氏子たちが豊漁、豊作を占うために、まつりの最後に行われる祭礼行事で、海人が伝えた南方系習俗であるといわれている。

216 的射の儀 (市)
❶的射の儀保存会　❷毎年4月第3日曜日の前日　❸南あわじ市津井
❹津井　春日神社

毎年4月、春日神社の例大祭に奉納される「的射の儀」の頭が伝えられている。的場で1人の大前と6人の射手と2人の矢拾いが選ばれ、射手が1回2本ずつ、七・五・三の計15回の的を射て、天地四方の悪霊を祓い、五穀豊穣、除災招福を祈願する。

217 水陸普度勝会 (市)
❶神戸福建同郷会　❷旧暦7月15日に一番近い週末　❸神戸市中央区
❹関帝廟

普度は旧暦7月15日の中元節の前後に執り行われる行事とされています。時にこの行事は、同じく旧暦7月15日に開催される各家の祖先および有縁無縁の万霊を供養する盂蘭盆会と重ねられ、「華僑の盂蘭盆会」とも評されることがあります。しかし、普度では、「祖先祭祀」も行うが、「陰間（あの世）から陽間(この世)に訪れる孤魂野鬼への供養(施餓鬼)」をより重視されています。

218 ダンゴノボー (市)
❶松原神社　宮講　❷3月13日　❸尼崎市浜田町1丁目6　❹松原神社

松原神社の春祭として実施される行事。ダンゴノボーと湯立神楽が行われます。ダンゴノボーの供え物は、コノシロのかすむし、マテガイ二つ、バイ二つ、ハマグリ四つ、お米、おひら、塩味のおはぎ の古式神饌をお供えしています。

219 名塩八幡神社のトンド (市)
❶名塩八幡神社　氏子会　❷成人の日または1月15日に近い休日の朝方
❸西宮市名塩1丁目2−3　❹名塩八幡神社

トンドは「宮守」と呼ばれる人たち中心に準備・運営を行う。特色は、篠目竹などを使って組み立てる円錐の形をしたトンドである。トンドを立てる数日前に立柱式が行われ、トンドは名塩八幡神社の境内下の広場にその年の恵方を正面にして組み立てられる。トンドの当日、午前4時から拝殿で神事を行い、切火から起こした火で松明に火を灯す。その後、宮守たちは松明を持ってトンドへと向かい、トンドの焚口に点火する。

220 芦屋のシャコ踊り (市)
❶芦屋シャコ踊り保存会　❷毎年八月三週目の週末
❸芦屋市上宮川町7　❹上宮川公園

芦屋のシャコ踊りは、農業の収穫期に踊っていたとされ、踊りの振りに苗を田に投げ入れたり、稲を刈ったりするしぐさがあります。収穫を喜んでシャコ（蝦蛄）のように飛び跳ねる様子を踊りで表現しているといわれています。現在、芦屋市上宮川町で踊られているシャコ踊りは、西宮から伝わり、大正時代に芦屋に定着したといわれる。

221 池尻春日神社　オトウ (市)
❶池尻春日神社氏子会　❷11月23日　❸伊丹市池尻6丁目
❹池尻春日神社

池尻地域は、当屋制度を利用した諸々の祭りが、現在でも数多く残されています。当日の池尻春日神社での神事には、池尻会、当番、氏子会、そしてこれらの組織に所属しない「一般の人」という四種類の立場の人びとが参加します。

222 多太神社秋の祭礼 (市)
❶多太神社氏子他　❷10月末の土曜日（宵宮）・日曜日　❸川西市平野
❹多太神社及び能勢電鉄多田駅前、平野地区・東多田地区・新田地区・矢問地区等

多太神社の氏子である平野の太鼓台、東多田の太鼓台、新田のだんじり、矢問の太鼓台と祭礼屋台が混在して祭礼が行われます。また、太鼓台とだんじりの巡行とともに、東多田の獅子舞と新田の「にわか」が多太神社に奉納されていますが、特に新田のだんじり上で演じられる「にわか」はだんじり芸を今に伝える貴重なものとされています。宮入は3年に一度実施され、宮入以外の年には、10月末の日曜日(本宮)に各地区で地区内巡行等が実施されています。

223 下相野のオトウ行事 (市)
❶オトウ組織　❷秋祭り　❸三田市下相野地区　❹大歳神社

下相野におけるオトウ行事は、1年交代でトウニンを務める。1月3日の大歳神社での祈年祭・ハナフリ行事の後、新旧のトウニン、宮司、オトウ総代の4者で受け渡しの儀が行われます。

224 国安天満神社の秋祭り (市)
❶氏子代表他　❷10月第2土曜日に宵宮、翌日曜日に昼宮
❸加古郡稲美町国安　❹国安天満神社

祭礼は神社に屋台などともに氏子が参詣し、祭儀を行います。舞殿での獅子舞奉納や屋台の練りなどが行われる一方、昼宮の午後から神輿を中心にした渡御が実施される。これは「みそぎ渡御」とも呼ばれ、神輿を天満大池に投げ入れること3回行ってから、行列が御旅所に進みます。

225 数珠送り (市)
❶愛宕講　❷8月23日　❸加古郡播磨町野添鹿の川地区　❹愛宕神社

数珠繰りは、数珠の周りに参加者が座り、「なむあたごさんだいごんげ」と唱えながら、数珠を回します。数珠の中に大きな数珠があり、これが回ってきた参加者は数珠を持ち上げて祈りを行います。主導役が最初に大きな数珠を持って始まり、これが戻ってきたことで1回とし、回数の確認役が数え木を動かしていきます。

226 鞴祭 (市)
❶三木金物神社奉賛会等　❷12月第1日曜日　❸三木市上の丸
❹金物神社

かつて鞴と呼ばれる送風機は金物の鍛錬工程のなかで必要不可欠でしたが、機械化がすすみ、現在では実用されていません。しかし、金物のまちとして知られる三木市では、三木金物古式鍛錬技術保存会の内部の五部会（鋸・鑿・鉋・鏝・小刀）が、いまでも送風機（鞴）を用いて、年番制で「火入式」を実施しています。

227 ハナフリ (市)
❶大歳神社氏子等　❷1月3日　❸小野市黍田町　❹大歳神社他

兵庫県南西部では、ハナフリと呼ばれる年頭行事が盛んに行われています。その多くは常緑樹の枝を持って集落の人々が寺社に集い、豊作を祈願する言葉と共にその枝を振る行事で、振った枝は各自が持ち帰り、田の苗代や水口に挿します。黍田町のハナフリのツトは藁で作られていますが、これら行事の一種であると考えられています。

228 貞守のオトウ (市)
❶オトウ組織　❷—　❸加東市東条町貞守　❹貞守区内

貞守には、2つのオトウ行事が併存しています。1月1日に祷人宅にオハケを立てることから始まり、2月13日の毘沙の祷、10月6日にお祷講を行います。
この祷人とは別の祷人が、2月6日の堂の祷を行います。

229 雨散々 (市)
❶下三原地区　❷1月1日　❸多可町八千代区下三原
❹下三原貴船神社

雨散散は、干ばつに苦しむ下三原の人々が氏神に参り、八幡大菩薩に雨乞い祈願したことが起源とされています。行事終了後は、樒（しきみ）の小枝を持ち帰り、厄除けとして家の戸袋などに1年間挿しておきます。

230 甘地の虫送り (市)
❶甘地地区　❷夏の土用から3日目　❸神崎郡市川町甘地　❹甘地地区

稲につく害虫を追い払う行事で、一般的にはサネモリ人形を先頭に松明をもった村人が行列を組んで村中を廻り村境まで歩きます。甘地地区では、長くこの行事は途絶えていましたが、いったん復活したこともありましたが、本格的に復活したのは平成12年のことで、それ以後毎年多くの参加者を集めて盛んに行われています。

231 さいれん坊主 (市)
❶さいれん坊主保存会　❷7月14日　15日　❸たつの市中垣内
❹井関三神社　恩徳寺

地元では雨乞い行事であるとも、「嘉吉の乱」によって城山城で討ち死にした赤松満裕一族の霊を弔うために行われるようになったとも伝承されていいます。姫路市、太子町、たつの市周辺では、盆の時期に様々な形の火祭りが盛んに行われており、さいれん坊主もこれら行事の一種であると考えられています。

232 河内神社オトウ (市)
❶河内神社　氏子他　❷10月第1土日　❸たつの市新宮町
❹河内神社他

河内神社の祭祀とは別に、上下のトウヤ宅において おやしろさ（分御霊ともいう）が常時祭祀されていることが注目されます。トウヤの制度が今も厳重に続けられているところが貴重とされています。

233 赤穂八幡神社秋季例大祭 (市)
❶赤穂八幡宮神幸式の頭人行列は、尾崎地区自治会連合会が、また赤穂八幡宮獅子舞は、尾崎獅子舞保存会が担っている。　❷10月15日例祭神事、続く直後の土曜日と日曜日　❸赤穂市尾崎203　❹赤穂八幡宮

境内ならびにその道中では特色ある獅子舞、頭人行列が繰り広げられる。宵宮で、子供屋台の尾崎巡行等、子供神輿と屋台が境内に集合し、夜には獅子舞が奉納されます。翌日の神幸式は、子供屋台の尾崎巡幸、頭人繰り出し、太鼓うち出しによる獅子舞、、神輿と屋台の繰り出しで構成され、行列がノット入りします。そのあと、一行はかがり火が焚かれた赤穂八幡宮に宮入りし、拝殿で獅子舞を奉納し、還御祭がしめくくられます。

234 御形神社御当祭 (市)
❶御形神社　当人　❷3月3日（開当祭）　3月17日（奉迎祭）
❸宍粟市一宮町森添280　❹御形神社

氏子域の村々から3人の当人が選ばれ、これらの家では祭神の分霊の納められた御神祠を床の間に祀ります。また、当人の家では、開当祭の神事に際しての神饌や道具等の準備が整えられ、神饌には、栗・栢・掛鯛・串柿・黄精（ところ）・三玉串（胡桃の棒）など伝統を受けついだ品々を見ることができます。

235 城崎のだんじり祭り (市)
❶連と呼ばれる年齢階梯組織　❷10月14日（宵宮）　15日（本祭）
❸豊岡市城崎　❹城崎区内

湯の町城崎を代表する祭礼で、祭りを執行するのは「連」と呼ばれる組織です。年齢階梯制になっており、浄衣の私事のもとに神輿やだんじりが各々の役割とルールのもとに統制がとれた動きをする点が大きな特色です。このような明確な組織をもつ事例は、但馬では出石のだんじり祭りでも見られます。

236 沖浦の山の神 (町)
❶沖浦子供会育成会　❷毎年1月7日前後の日曜日　❸香美町沖浦
❹沖浦地区内

参加者は小学生が中心となり、年により中学生や園児が加わります。沖浦の山の神は一柱の女神であり、山の神を怒らせないよう、顔に墨を塗り醜い姿となって参拝します。その為、集まった参加者は互いに顔を墨で汚しますが、その際に額に「山の神」と書き、頬や鼻など、その他の場所は書き手の自由に汚しています。その後、集落から1キロほど離れた山の神の祠まで練り歩き、参拝の後後ろを振りかえらず、走って戻ります。

237 精霊船 (町)
❶龍雲寺護寺会役員他　❷8月16日　❸新温泉町居組他　❹居組湾他

精霊船はお盆の年中行事で、盆の期間中に迎えた精霊を供物などで慰めた後、盆船で山川や海へ送ります。精霊流し、精霊送りとも言われる行事で、但馬では地域によって海や川など、送る場所が異なります。

238 広谷観音祭り (市)
❶広谷観音祭実行委員会　❷毎年7月17日・18日　❸養父市広谷
❹広谷の観音堂及び広谷の街路

養父市広谷に伝わる祭りで、祭りの主な行事は、広谷地区内七ヶ所における「造り物」展示と曳山巡行による広谷観音囃子です。

239 圓圓和 (市)
❶三保子供会と自治会　❷毎年12月中頃　❸朝来市山東町三保
❹三保公民館他

朝来市に伝わる奇祭のひとつとして知られています。男の子が「えんえんわー」と声を張り上げながら、集落を回り、生米を潰したものを2つの祠に供える。その後、男の子たちが女の子の顔に生米を潰したものを塗るために追いかけ回す祭だと伝わっています。

240 谷川高座神社の例祭 (市)
❶オトウ組織　❷10月第2日曜日　❸丹波市山南町谷川字式垣内
❹高座神社他

高座神社の祭礼は、中世荘園の祭祀圏を背景とするオトウと谷川地区を母体とする近世的な神幸祭を残す貴重な祭礼です。

241 イノコ (市)
❶各自治会等　❷11月23日他　❸丹波篠山市　❹味間地区他

イノコは豊作を祝っておこなわれる行事です。丹波篠山市域（旧多紀郡域）では、イノコの行事が15地区に見られ、それぞれの地区でイノコ唄が異なります。味間地区のイノコは、11月23日の勤労感謝の日に行われますが、それ以外の地区では、11月の最初か2番目の亥の日に行われています。

242 石上神社座相撲 (市)
❶石上神社氏子　❷10月9日　❸淡路市舟木　❹石上神社

東の「豊年」と西の「万作」に分かれ、拝殿前にひかれた筵の上に正座し、軽く膝立ちした体制で組み合い、行司役の声で相撲をとる。一組が四番ずつ三交代、合計一二番行われ、東西六回ずつ交互に勝ち抜き、六勝六敗の引き分けで、「豊年万作」となります。

243 沼島の山の神 (市)
❶山の神組　❷1月第2土曜日　❸南あわじ市沼島　❹山ノ大神社

農民が信仰する山の神は春に山から里に下り田の神となり、収穫後の秋には山に戻り再び山の神となるなど豊穣祈願の農神的存在ですが、沼島の山の神は「鉄王稲荷大明神」と呼ばれています。漁村民が信仰する場合、沿岸漁業における乗船の位置を確認するための「山あて」が重要となり、山あての対象となる山そのものが霊山となり信仰の対象となります。